



・**診療機器更新計画** 多くの方々に支えられ、当院は開院6年目となりました。順調に診察数が増え、地域の皆様に役立つ二次診療病院の責務を全うできていると自負しています。7年目にあたり、多くの診療機器が耐用年数に限界を迎えつつあります。物理的に負荷がかかる部品は1-2年、X線管球や冷却器は3-5年程度の耐用年数です。前職では、ベルトが生産中止でCT本体廃棄の経験もあります。6年前は新品でも今は耐用年数を迎え、いつ壊れてもよい状態で使う危険時期に突入します。売上が伸びても、数億近く！の機器更新に頭を悩ませる日々です。(病院長 浅沼敏武)

VMTH NEWS

・**日本動物看護学会第32回大会:** 9月2-3日、206名が参加して「実践の知から科学の知へ」というテーマで開催。地元四国の参加少は(🇯🇵)でも、研究・事例発表、シンポジウムでの熱心な議論で大盛況。最後に“Initiation for Insightful Investigation at Imabari (4Is;フォーアイ 今治での洞察に富んだ研究の開始), 2023”が宣言され、今治~四国~日本~世界が協力して動物看護発展を誓いました。(清水夕貴)



亡くなった動物たちに慰霊の心を捧げました。学部長の訓話と実験動物センター長、教育病院長の現状報告の後、参加者が献花。時間が取れなかった人のために、閉式後に別室での自由献花も行いました。(三河翔馬)



新教職員紹介 花山 純平 研修獣医師 10月から軟部外科/麻酔科専攻で働いています。兵庫、岡山、広島の一次病院で8年の勤務を経て、開業準備のため今一度学び直したいと、地元である愛媛に家族(妻、最近1歳になった娘、猫3匹)で戻ってきました。VMTHでは日々新しい経験・知見が得られ、スキルアップを実感しています。



・**獣医学部感謝状贈呈:** 9月11日に今治あいけんペットクリニック重松福太郎院長に感謝状贈呈。先生は、獣医キャリアスキルアップ研修(インターンシップ実習)で2023年に7名の学生を指導。研修効果も高く、臨床教育への貢献に感謝です。(K)



・**医獣連携分野第一期生卒論発表会:** 獣医学科で初の卒論発表会。医獣連携(臨床)分野は10月9日の大トリでした。私たちの心配をよそに、立派な発表ばかり。6年間の成長を感じました。これで区切りとして、次は国家試験を頑張ろう!(岩田惠理)



・**今治ジョブチャレ・キャリア(職場体験)サポートプログラム:** 10月25日に伯方島と大三島の中学生4名が、イヌとウシの基本的な診断手技を松田・三河・後藤の指導で学習。はじめは慣れない手つきでも徐々に才能を発揮。将来の夢と希望が見えたかも。(梶原泉希)

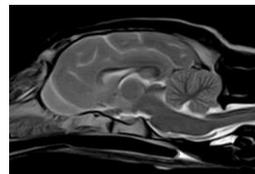


コラム1 グルメ in 今治 #9



今治市東村「らぁ麺 enten 香」さんに足を伸ばして。学生にも人気の、いわゆる“二郎系”ガッツリ太麺&超大盛りのラーメン屋さんです。野菜マシマシのつけ麺をオーダーすると、トッピングの野菜が別添え丼(衝撃)でやってきました。麺と野菜、そして豚肉が豚骨醤油のスープとよく絡みます。もう食べられない、と思っても数日するとまた食べたくなる美味しさが魅力の秘訣。ラーメン好きの全ての夢がここにはあります。(朱 夏希)

VMTH の診療 画像診断科は、麻酔科と連携しながら各診療科の要望に応じてCT・MRIの撮影と読影を行います。画像診断は、疾患発生部位だけでなく、各臓器の状態(写真は脳のMRI画像)を把握し、治療の基盤となるため、緊張感をもって取り組んでいます。少し高額ですがX線や超音波検査では解明できない異常を明らかにできる醍醐味があります。治療や診断が難しい症例にご活用ください。(久楽賢治)



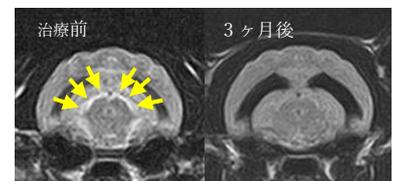
・**第4回 ゆめいこい祭:** 11月25-26日に大学祭を開催。今年は初めての2日間開催となり、幸いにも両日も晴天。学生の模擬店や模擬講義、ライブや展示に加え、地元企業、FC今治、ダンスなど大人も子供も楽しめる企画やイベントで大賑わい。(下川孝子)



・**第11回公開セミナー:** 11月29日に(株)ベックジャパンの金井孝夫氏を講師としてVMTH第11回公開セミナーを開催。演題は「動物病院経営学 日本の動物医療の见えない未来をどう考えるか?」。開業の先生、学生、教員・スタッフ32名が参加し、経営者と従業員の新たな「チーム獣医療」を学びました。病院運営のスパイスになったと思います。(糸井崇将)

・**動物慰霊祭:** 今年も12月1日に執り行いました。あいくの風と寒さでしたが教職員・学生250人以上が参加、

VMTH Case Report 猫コロナウイルスが原因の猫伝染性腹膜炎(FIP)は、良い治療法が無い難病です。新型コロナ流行のおかげでコロナウイルスに関する研究が進展し、FIP治療にも光が。1歳齢、ロシアンブルーの神経型FIPに、飼い主の了解を得て、従来のステロイドと抗菌薬にヒト用抗コロナウイルス薬モルヌピラビル(1日2回内服)を追加。3ヶ月後には、MRI検査で炎症(図:矢印)消失、脳脊髄液コロナ



ウイルス遺伝子陰性化、今は無治療観察中。しっかり食べ、ふらつきが消え、少しならジャンプもできて飼い主に喜ばれています。この薬は新しく、ネコでの効果や副作用が不明ですが、症例を蓄積して有効性と安全性を確認し、FIP に苦しむ猫を減らしたいです。(小林宏祐)

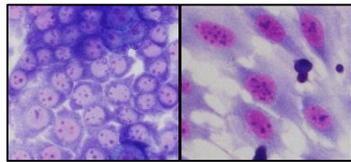
コラム2 和田動物看護師の釣り日誌 #9

2023年8月4日晴天、場所は私のホームフィールドの大島沖。江戸から昔の釣り仲間が来今。ダイワ極鋭 GAME にシマノ炎月をのせて、他所ではやらないギザミ狙い。ギザミは一般名キュウセンベラ。釣れても“捨てる”魚と思っていましたが、今治では釣りの定番。刺身・煮つけ用にスーパーで売られ、居酒屋メニューでも普通。青色がオス、ピンクがメスと、釣った瞬間に雌雄がわかって面白い。釣果は・・今回もウフフ。マルハギさんもゲストで大満足の再会釣り大会でした。(船長 和田)



OUS-VET Article Kobayashi K, Takemura RD *et al.*,

Phenotypic and molecular characterization of novel pulmonary adenocarcinoma cell lines established from a dog. *Sci Rep* 13(1): 16823, 2023. がん研究において、何世代でも培養できる“細胞株”は、がん細胞の性質解明や新規治療法探索に役に立つ重要なツールとなります。私たちはVMTHで手術を受けたイヌの肺腺癌から新しく作成した細胞株の性状解析を行い、Nature 系列の *Sci Rep* 誌に発表しました。細胞の形(丸くて可愛い左とトゲトゲで格好良い右)、増殖速度、悪性度、抗がん剤耐性が様々な16種の細胞株



ができ、手術以外の治療法がない犬肺腺癌の研究に応用可能。今後も“臨床獣医師と研究者”という立場から、「診療室の謎を

実験室で解明し、診療室へ戻す」をポリシーに“がんの動物”を救えるようにしたいです。(小林宏祐)

コラム3 動物がん研究者のスイーツリサーチ #4

「パンケーキが食べたい」、その想いに突き動かされ気が付くと私は *café vibo* にいた。“雲のパンケーキ”が届くとシロップをゆっくりとまわしかけ、ふわふわのスフレ生地を口に運ぶ。ほんのりと甘く雲のようなやわらかな食感で、あっという間に完食。あっという間に分解されるRNAを扱うかのような「繊細な時間」がそこにはあった。(田川道人)



外科診療科の表と裏 News letter #4 でも扱った「上顎の切除(拡大手術)」は顔つきが大きく変わることが問題。今回はイタリアングレーハウンドの女の子。診断は扁平上皮癌で手術は十分な治療効果が期待できますが、スマートな顔がトレードマークの犬種です。悩みぬいた飼主さんと相談し、オーダーメイドでマスクを開発することに(図:設計用の顔型)。手術も無事終わり、改めて飼い主さんと相談すると、「手術に耐えたオンリーワンのこの顔がかわいくてたまりません。マスクは必要ありません！」とニッコニコ。なんとやりがいのある仕事なのでしょう。術後2年、再発転移も無く元気です。(佐伯亘平)



VMTHの愛玩動物看護師 動物もヒトと同様にいたみを感じます。私たちは「いたみ」による合併症やQOL低下を防ぐため、術後疼痛評価としてペインスケールを使用し、さらに飼い主さまから得た動物の気質や生活環境、院内での様子など合わせて、獣医師と連携して迅速な介入を心掛けています。VMTHでは、これからもいたみにも配慮した動物看護を考えていきます。(清水夕貴)



Evangelista MC *et al.* *Sci Rep* 2019 より引用

コラム4 愛媛のお酒 #9

木枯らし吹き月冴ゆる季節にぴったりな内子の地酒「一刀両断(純米大吟醸、酒六酒造)を。雑味が少なくクリアな味わい、ヒラメやマゴチの刺身との相性抜群、おろしたてワサビも相まって魚の滋味を引き立てます。しっかりと米の旨味を感じた後の凄みあるキレ味に「スパッと切れ」て今宵も討ち死に。(齋藤文代)



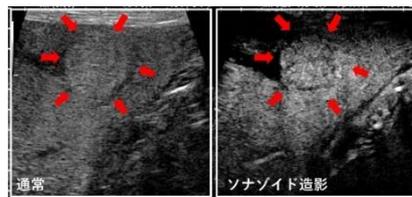
産業動物診療科だより



毎年恒例の、四国4県NOSAIに就職した若手獣医師向けの技術研修会を開催しました。2県より5名のフレッシュマンを迎え、牛の各種保定法に始まり、一般診察、投薬法、受胎率向上対策など診察技術に磨きをかける充実の2日間でした。乳牛の泌乳能力向上に伴い重篤化する病気に対し、的確な診断・処置を求められる現在、四国の畜産を支える原動力となることを期待します。(芝野健一)

VMTHの診療機器

今年度7月より、消化器内科ではソナゾイド造影超音波検査を導入しました。ソナゾイドは超音波用造影剤で、病変が良性か悪性かを高い診断精度(8~9割)で評価できます。特に肝臓腫瘍の診断に有用で、写真は肝臓腫瘍が正常な肝臓の組織と同等の造影強度を示したため、良性病変と判断しました。無麻酔か軽度鎮静で実施できるので、麻酔が怖くて検査をするか



悩まれている患者さんでも安心して検査できます。検査をご希望の方は当科までご連絡ください。(三河翔馬)

編集の後始末

- ・この前までの半袖が、今治はこんなに寒かったかな・・・。お元氣でしょうか。師走のNEWS letter #9をお届けします。
- ・獣医の学生にとって初めての国家試験。プレッシャーと緊張の中で一生を懸けた必死の勉強。悔いのないように頑張れ!
- ・病院セミナー、今回は病院経営。学生にも必要な事です。大学で聞けば高い受講料はなし。ぜひご利用ください。
- ・嬉しいことに研修獣医師が一人増えて4名に。より多くの人がVMTHに参加して、よりよい診療になっていきます。
- ・38さんのイラストは甲骨文字の「犬」。絵文字と漢字の中間的な中国殷王朝の文字(Wiki)。この犬は立ち上がって遠吠えかな? 私も思いつきり吠えてみたい。(K)

岡山理科大学獣医学教育病院
 〒794-8555 今治市いこいの丘1-3
 TEL: 0898-52-9001, FAX: 0898-52-9211
 E-メール: vmth@vet.ous.ac.jp
 URL: https://www.vmth.ous.ac.jp

